京都大学 KYOTO UNIVERSITY

P-1-3

研究力強化を見据えた戦略的URA活動アーカイブ手法の確立

田上　款、大西 将徳、岡崎 麻紀子、鈴木紀子、豊田裕美、橋爪寛、森脇一匡、関　二郎
（京都大学 学術研究支援室 (KURA)）

要旨

URA組織の拡張と期待される役割の複雑化は、我々の活動幅を広げる一方で、個々のURA活動の共有を困難にしている。本課題の解決には組織的なURA活動のアーカイブが必要となる。このアーカイブ手法を、単なる情報の蓄積ではなく、URA活動の最適化を見据えた形に発展させることができれば、URA機能の更なる高度化に貢献する。

京都大学 学術研究支援室(KURA)では、戦略的活動アーカイブの端緒として、研究者とURAのコンタクト情報の網羅的な蓄積を開始した。これまで個人ごとに整理され緩やかに共有されてきたコンタクト情報を、組織的なアーカイブに発展させた。これらを通してURA活動の客観的な視覚化を目指すとともに有用な活用策も模索している。本ポスターではこれらの取り組みを紹介し、URA活動の蓄積と共有、その活用の観点から議論を行う。

背景と目的

URAは「木も見て森も見なくてはいけない」

・研究力強化には研究者(木)、大学・学術(森)の両方の動向を把握する必要
・全学の研究者とURAのつながりを一望できる基盤を作りたい
・研究者へのコンタクトや支援情報を蓄積、URA活動の定量化を試みたい

➡ URA機能の高度化

活動アーカイブをテーマに、ネットワーキングセッションを開催します!!

N-3: URAのブランディングを見据えた
戦略的活動アーカイブ

日時：2日目(9/20)・ 9:00 – 10:30

会場：4階・406

ご参加お待ちしています。

組織が複雑化 → 情報共有が困難

でも研究力最適化には、URAの日々の活動記録と共有が欠かせない

①何をアーカイブ？　②どこまで共有？　③どう活用？

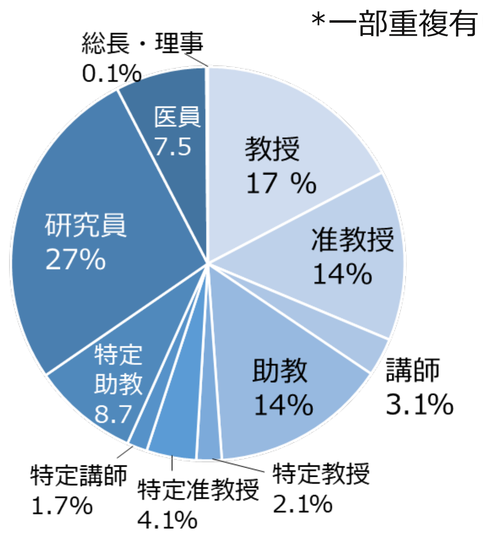
・九州大、東京農工大、京都大の事例紹介・参加者グループディスカッション

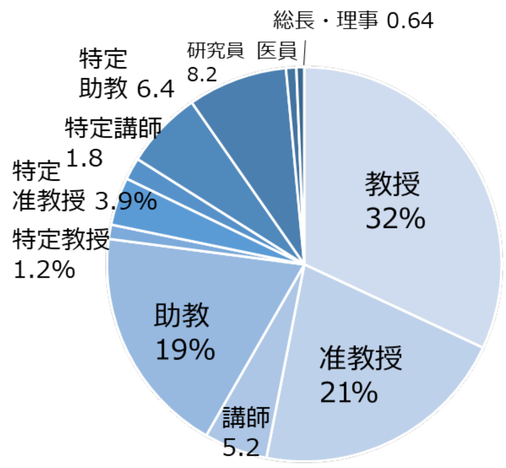
手法と見えてきたこと

・2018/4月から研究者と全URAのコンタクトを記録
・研究者名、職位など最小限の情報を共通シートに入力
・研究者とのコンタクト情報を検索可能
・2018/8/29現在、総入力2500件

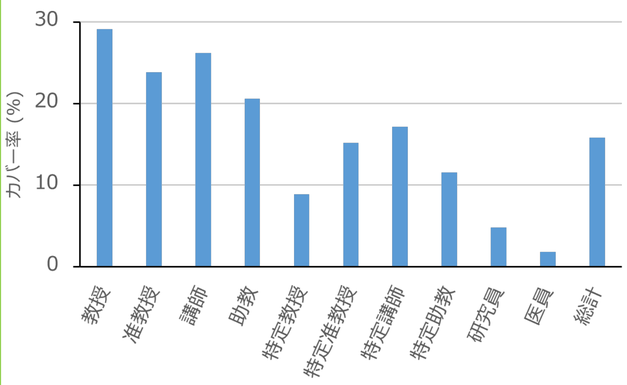
◇ 京大職位内訳・約5964名 ◇ URAコンタクト・942名

*一部重複有り





◇ 職位別カバー率



・カバー率は教授職が一番高い
・専任教員の方がカバー率が高い傾向がある
・研究員にはアクセスが低い

➡ プロジェクト雇用者への支援をどうするか？

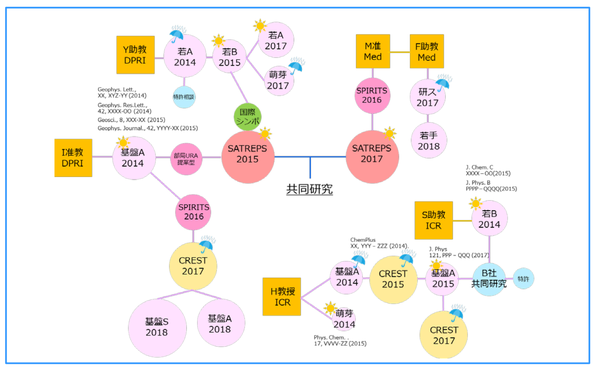
未来構想

・研究者別支援カルテ

氏名	所属	職位				
名無　権平	工学研究科	准教授				
1. 日付	5. カテゴリー	6. 主要事項	7. 備考	担当	担当	担当
2018/4/3	Pre	三菱財団		田上	大西	
2018/5/15	Post	○○委員会出席		XX		
2018/5/16	国際	国際シンポジウム		△△	◇◇	
2018/7/14	Pre	科研費	研究構想の相談	田上		
2018/8/25	研究力強化	IR		岡崎		

・研究者への支援ヒストリーを一目で共有

・支援発展マップ



➡ 大学IRとも組み合わせ、森も木も一望

課題

1, 各自の入力粒度のばらつき
2, 支援の深さをどう反映するか
3, システムの重さ
4, 学内他組織や、学外とのコンタクト情報の蓄積
5, これらを研究力強化に”能動的”に繋げるアイデア
・・・・

➡ 課題はまだまだあるが、段階的な解決が重要